

Collection →



next mission →

地球の教育を調査せよ!!

夕刊きょういく

大阪府教育庁

知的障害のある生徒の自立を後押ししようと、大阪府教育庁がコンビニエンスストア最大手「セブンイレブン・ジャパン」の協力を得て、府立支援学校高等部に通う生徒らを対象にした研修を初めて実施した。障害に配慮して考案されたプログラムに基づき、販売や接客に欠かせないレジの扱い方やあいさつの仕方を学ぶ実践的な内容。店舗で使われている機器に触れる体験を通して生徒の就労意欲を高め、障害者雇用にも力を入れる企業の人材育成ノウハウを教員にも学んでもらおうという狙いがある。(吉田智香)

自立後押し、就労アップへ



研修で釣り銭の渡し方を学ぶ支援学校の生徒たち＝1月17日、大阪市淀川区

大阪市淀川区にある同社の研修センターの一室に、コンビニエンスストアの制服を身に着けた大阪府立支援学校の生徒らの大きな声が響いた。大阪府と包括連携協定を結んでいる同社が協力し、初開催した研修。支援学校や自立支援コースを設置する府立高校計21校の1、2年生33人と教員21人が参加した。

生徒らは働く目的や専門的な用語を学んだ後、レジでの接客に挑戦。少しずつ難易度が上がるなか、生徒らは、レジで商品のバーコードを読み取り、客から代金を受け取って釣り銭を渡すという一連の流れを想定した動作をこなした。研修を見守った府立高槻支援学校の奥田文字教諭は「本物の道具を使えるのは、めったにな

い経験。生徒の働く意欲につながれば」と期待を込めた。

府教育庁によると、28年春に府立支援学校高等部を卒業した知的障害のある生徒837人のうち、企業に就労したのは25.6%に当たる214人。コンビニやスーパー、飲食店といった身近な業種への就労を希望する生徒は多いが、企業に就労した生徒の割合は全国平均の32.1%に及ばなかった。各支援学校でも職業コースを設置したり、職場実習先を開拓したりしているが、「全国水準に引き上げるには、さらなる実習先や雇用の確保が必要」（担当者）とみている。

同社直営店では現在、29人の知的障害者が働いている。藤本圭子ダイバーシティ推進部長は「受け入れ側の意識を変えることが定着につながる」と話す。人間関係が離職の原因になりやすいため、受け入れる側向けの勉強会や店舗を巡回しての指導のほか、仲間意識を持たせる研修を開くなどし、離職率ゼロを維持しているという。

府教育庁は今回の事例をモデルケースにしたいと考えて、松井一郎知事も「研修のバリエーションをどんどん増やしていきたい」と協力を呼びかけている。

支援学校生コンビニ初研修

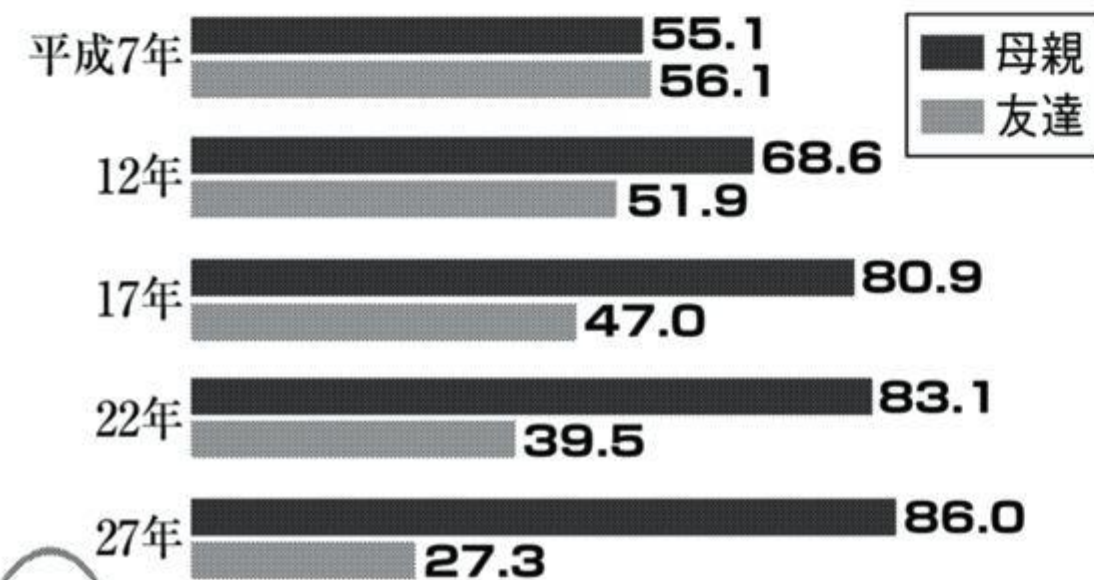
園児は誰と遊ぶのか

(数字は%)

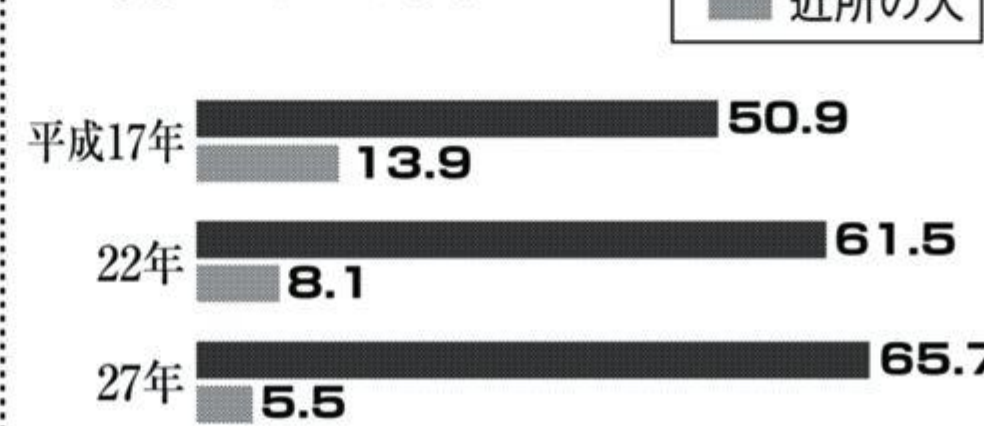
数字でみてみよう

幼稚園・保育園に通う乳幼児の保護者に聞きました

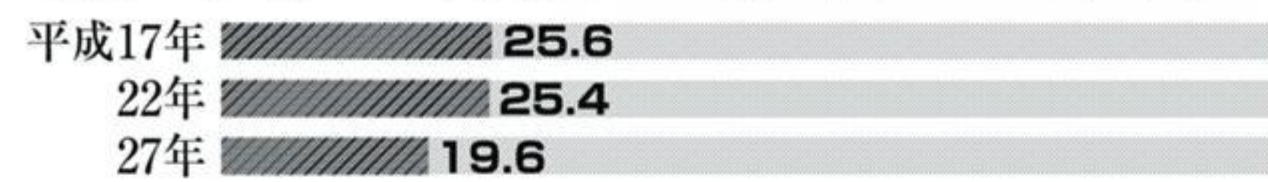
◎平日、(幼稚園・保育園以外で)一緒に遊ぶ人



◎面倒を見てくれる人



◎母親が子育てで「友達と一緒に遊ぶこと」に力を入れる



◎家の外にいる平均時間

施設	年	家を	
		出る	帰る
幼稚園児	平成7年	5時間39分	8:46 14:25
	12年	5時間58分	8:42 14:40
	17年	6時間05分	8:39 14:44
	22年	6時間18分	8:38 14:56
	27年	6時間11分	8:36 14:47
保育園児	平成7年	8時間36分	8:33 17:09
	12年	8時間59分	8:24 17:23
	17年	9時間15分	8:17 17:32
	22年	9時間31分	8:13 17:44
	27年	9時間34分	8:07 17:41

園以外で友達と遊ぶことが少なくなってきたね



そらくん

親子の関わりが密になったのかな



ほしちゃん

※ベネッセ教育総合研究所「第5回幼児の生活アンケート」の概要